
熏様の悲劇

稲牙弒 澁

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

熏椽の悲劇

【Nコード】

N1424F

【作者名】

稲牙弒 澁

【あらすじ】

熏椽が千年前に起こした悲劇が再び熏椽の手によって繰り返されるようとしている。そして雛雀と籟鏡の千年前の約束が果たされるのだろうか！？

第一話：千年前の約束

あれから…。

千年間死なない体で過ごしてきた。

不老不死は自分じゃ死ねないから……………。

千年前からの約束…

叶うはずなのに今もいつか叶う事を信じてる。

もし籟鏝（ライア）が千年前の事件で死ななければ俺、雛雀（スザク）は約束果たせたのかな…？

今の俺は、それが分からない…！

もう昔の俺を知る人はいないんだ…。

俺ははじめからやり直していいのか……………？

教えてくれッ！籟鏝ッ。

『また会おう』って約束はもう俺の最後の光なっているのだから…
…。

千年前の事件を知っている人は少なくなっているはずだ。

もう伝説でしかないのかもしれない…。

でも事実であって嘘ではない…！

俺は遠くから見ていたしかなかったのだ……。

知らない事が頭の中で駆け巡りあっという間に滅んだ。

たったこれだけしかない。

でもそこには熏様「ヤクモ」が絡んでいる事…。

俺の親友の一人……。

何故裏切った熏様ツ！

たくさんの人を殺してお前は何がしたかったんだ？

自分の罪を認めず大地震に仕立てあげて……。

籟鏝まで殺してっ！

お前は今何処で何をしている？

死んだのか…？

みんな…っ。

第二話：籟鏗に似た少女

籟鏗なのか…ッ！

気がつくとも籟鏗らしき少女に駆け寄り肩を引つ張っていた。

「籟鏗ッ！」

何を言っているんだっ！

俺はっ…！

あるはずがないのに…。

籟鏗はあの時死んだんだ。生きているはずない…っ！

「いやっ悪い…。人違いだ。」

ありえないんだっ！

いい加減未練を捨てろよ！悔やんでもあいつは帰ってこない…ッ！

俺は涙をこらえられないように俯いた。

「籟鏗？あんた歳いくつ？」

千年前の生まれた。なんて言えないっ！

「えっと…っ！」

だせえー俺…。

何だよこの女!?

男みたいな口調で…!

どっちが女か分からねえ!

「変な事を聞くけど…千年前、お前生きていた? いや、やっぱりい…。」

その女は俺を知っているかのように聞いてきた。

こいつ研究員か何か…?

「千年前の熏椽の悲劇を知っているのか?」

籟鏝という名前を知っていたし、こいつは何なんだ!

俺の質問に驚いているのか…?

「……お前名前は…?」

質問を質問で返すし話しが全く噛み合っていない…。

「雛雀……。お前は?」

悲しくも俺はその質問に答えた……。

気まずい……。

全く生きた心地がしない…。

いや、もともと生きた心地など忘れてしまっていたな俺は……。

あくまでもポジティブに行かなくては押し負けてしまう…。

「椿……。これで失礼する……。」

椿と名乗る女の子はすぐに歩き去っていった。

まあ椿という名前かどうか分からないが……そう呼ぶ名前が一つしかないから仕方ないか。

その後、大きなため息をついた。

沈みそうな日を見て前を向き家へと歩き出した。

第三話：想いの果て

悲劇から千年立つというのに…。

まだあの悲劇から逃れる事は出来ないのか…？

籟鏗に似た千年前を知る子は何を思い何を感じたのだろうか…？

あの悲劇を知る事がつらいはず…知らなかったほうがよかつたんじゃないかな…？

空には飛行機が飛び交っている世界とはほど遠く外れている…。

籟鏗、お前が生きていたらこの世界をどう思ったのだろうか。

きっと…悲しい顔をしたのだろうな。家に着くまでにたくさん事を考えた…。

椿は見れば見るほど籟鏗だった。

光の中にも闇があつて、冷たいようで優しい。

俺の家の前には、永遠に成長しない俺に会いにやっと二十歳になった同級生が尋ねてきた。

「…何か用？」

俺は呆気なく聞いた。

「雛雀…！？お前変わらないなあ。っていうかお前学校を卒業してから身元不明だし、戸籍調べて貰っても千年前にしか同じ名前の人いないし…。成人式にも来ないしで本当に心配したんだぞ。」

さらにめんどくさい…。

「そう…それはすまない。」

今は話している気分じゃないし、俺はダチでもなんでもないと思っ
てんのに来るなよなあ…。

鬱陶しい…。

さらにこうだっ！

「何だよ。その言い方。まあいいけど…なんでお前戸籍ないんだ
よ？」

どうだっていいだろうがそんな事…。

「いらないから…。それにあっても俺を捜したり必要とするやつい
ないだろ。」

はあ。どこまで言ったら帰ってくれるのかな？

「なんだよ…それ。まるで自殺志願者みたいな言い方して…。」

ああしつこい……。

本当の事言っただけなのに……。

「自殺志願者……？ そうだな……俺はそいつらと同じくらい死にたい……だから何だ？ 悪いけど今、取り込み中だ。帰ってくれないか？ それが無理なら俺の家の中で静かにしてもらえないか？」

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n1424f/>

熏様の悲劇

2011年1月19日02時56分発行